

仁川大学校 (韓国)

新年を迎え、気持ちを新たに切り替え、1月は月末に行われた TOPIK (韓国語能力試験) にむけての試験対策を重点的に行いました。また、残す留学生活も1ヶ月となり、試験勉強や精神的にも最後の締めくくりをしながら過ごしていた月でもありました。

学習状況 〈TOPIK 対策として行ったこと〉

まず TOPIK 対策として行ったことは各セクションの問題パターンに慣れることです。TOPIK2 は聞き取り、書き取り、読解の三部で構成されているので、各部門の問題の出題形式に慣れることが必要でした。また、昨年7月に受験した際には問題傾向がある程度わかっているにもかかわらず問題中の語彙や文法を読み解くのに時間がかかってしまい、結局は時間不足となってしまったので、解きながら知らなかった単語を調べるなどして、今回は内容理解にも十分に時間をかけました。

留学生活も残り一週間程度になりました。6ヶ月という時間は想像していたよりもあっという間に過ぎ去っていきました。今回交換留学に来て感じたことは、現地に行って自分の学びたい言語を学ぶ・話す・聞くことの重要性に身をもって気づいたことです。韓国語の生活の中に入ると、韓国の文化の中で生活できる環境にいた中で周辺環境の変化の影響を実感しました。また、日本から離れたことではじめてわかる日本や日本語の良さにも気づきました。仁川で出会った韓国人・その他の国の友達と話すなかで、自分とは違う日本への視点も気づくことができました。韓国という国が好きだったからこそ、自分が生まれた日本について考えることができたと思います。そしてなにより、留学準備の期間から今までの過程で語学力、努力、決断力、経験、友達、思い出を得ました。自分の語学力不足に悩み、もどかしい経験もたくさんしましたが、この留学によってさらに韓国語が好きになり、韓国という国が好きになりました。

留学の期間は終わるとはいえ、日本に帰国後もここでの思い出を胸に、また必ず帰ってくるんだという気持ちで学習し続けたいと思います。コロナ禍が終わらない中での留学ということもあり、日本でも現地でもたくさんの方々にお力を貸していただきました。このような交換留学という素晴らしい経験をさせていただけたことに非常に感謝しております。

ドモントフォート大学 (イギリス)

5月にある全プロジェクトの最終提出を前に、新しいプロジェクトが5つほど始まりました。今期から始まったアニメーションのプロジェクトでは、IllustratorとAfter Effectというソフトを使い、Googleの検索エンジンに登場するGoogle Doodleというショートアニメーションを作ります。一から新しいソフトを英語で学ぶことに不安はありますが、その点において人一倍時間がかかるというのは始まる前からわかっているため、遅れを取らぬよう余裕を持って物事を進められるようにしていきたいと思います。

またCCSという、クリエイティブライティングの授業も始まりました。この授業では、自分の作品の詳細やアイディアの経緯、インスピレーションを受けたデザイン等々を細かく記します。今まで学んできた英語のエッセイなどとは毛色が異なる上、全てのデザインアイデアに明確な根拠が求められるため、英語そのものに加えてこうしたライティングスタイルにも苦戦しています。

国立政治大学 (台湾)

・中国語授業編

学期の最後には各自で興味のあることについてプレゼンテーションを行いました。私は台湾の文化を中心に、歴史と現代における日台関係について発表したのですが、今学期学習したことを振り返る非常にいい機会でした。また、先生との口頭試験も行われました。今学期を通して、日常会話がある程度できるようになりました。先生や同級生の話している内容を理解してそれに簡単に意見を述べること、教科書の文章を読んで理解し、内容に関する問いに回答することなど、学期が始まった9月時点と比較して、できることは少し増えたと思います。

しかし、文章の難易度が上がるごとに読めない漢字に遭遇する場面も増えてきました。基本的に中国語は一つの漢字に一つの読み方しかないのですが、覚えてしまえば読めるのですが、その逆を言えば、その漢字を知らなければ全く読めないことになります。知っているか知らないかでだいぶ理解度が変わってしまうのが中国語の特徴です。この点を踏まえ、次の学期では単語力を強化していきたいと思います。

オンライン留学になった当初はかなり落ち込んでいましたが、あっという間に半年間が過ぎ去ってしまいました。新しいことに挑戦してみても良かったです。あと半期オンライン学習を継続していきますが、後期はもっと主体的に興味範囲を研究していきたいと思っています。前期は与えられた課題に対してひたすら答えていくばかりでしたが、後期は質問をしたり復習で知識をより深く吸収していったりと、もっと時間を有効活用していきたいと思っています。

オウル大学 (フィンランド)

(1) 近況報告

年があけ、交換留学後半戦がスタートした。100人以上の新たな交換留学生在が到着し、たくさんのお会いがあった1月であった。

(2) 学習状況 第3クォーター2022年になり新しい講義が始まった。第3クォーターからは修士向けの講義が増え、僕もそこから講義を選んだ。難易度は学士向けと比べると変わらないが、グループワークなど増え、より実践的な講義となっている。「講義を受ける」から、「自分の意見を述べる」次のステップに上がった。

・ Institutional Context of Global Business

世界的にビジネスを展開していく際、文化や政治などの環境に対応しようと企業には制度的な (institutional) 行動が生まれる。その“制度的”に関して追求していくオンライン講義。

<生徒数> 50人 <対象者> Master's program in Marketing 1年

・ Perspective on Innovation Management

新たな価値・技術が創出された際に企業がとるべきアプローチや戦略に関する講義。前半の講義では知的財産権や創出物の種類分けに関する知識を得た。

<生徒数> 50人 <対象者> Master's program in International Business Management